

稲刈り無事終了！そして…

11月22日。無事に最後の籾すりが終わり、今年の稲刈りも終了です。大きなトラブルもなく、農園メンバー全員が元気に稲刈りを終えられて本当にありがたい限りです。猛暑を乗り越え、二度の台風を乗り越えた米は生命力がみなぎる「元氣くん米」。これまで頑張ってくれた農園メンバーと彼らを支えてくれた奥さん、子ども達に、そして彼らのご両親に心からの感謝を申し上げます。



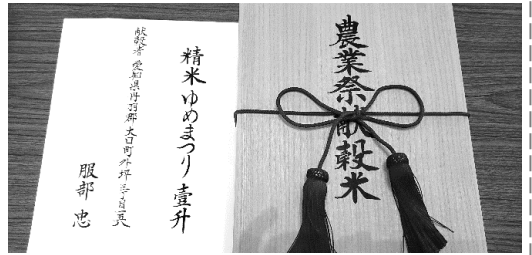
30年産の顔はこれ↑ 毎年の恒例行事。服部農園ではその年共に米づくりをしたメンバーで写真撮影をしています。「私達が生産者です」という事で、これから一年間この写真を米袋の裏側に貼り、お米と共に食べて下さるみな様のもとへ旅立っていきます。今年のTシャツは聖林公司さんのMOTHER NATURE。「母なる自然」に敬意を込めてこのTシャツを選びました。30年産の米づくりの終了。そして31年産の米づくりの始まりです。



10年分のありがとう 11月1日、農園の現場統括部長・高須輝さんが勤続10年を迎えました。現会長の靖宏時代より、家族以外で一番長く農園と寄り添い、共に歩いてくれました。輝さんが入社した当時、今ならブラック企業と呼ばれてもおかしくないですが、雨が降ったら休み、田植え時期は植え終わるまで休みなしといった具合で、百姓はそういうものだ…。そんな頃から変わらず今も力強く農園を支えています。高須輝さんに感謝状を。これから先の10年もどうぞよろしく。

献穀献納式～皇居へ～

今年、私達は「第126回愛知県農業祭・献穀事業」の献穀者として新嘗祭に献上するお米を育てました。10月22日、皇居へ上がり「献穀献納式」を無事に終えました。献納式の後、新嘗祭の行われる神嘉殿にて「新嘗祭」が宮中で最も古く、最も大切にされてきた祀りごとだと説明をしていただき、その後、いよいよ両陛下にお会いする時間に…。大将は長野、岐阜、静岡、愛知を代表して陛下に今年の作柄をお伝えする役割を仰せつかっており、緊張は頂点に達していました。玉砂利の音が次第に大きくなり、天皇陛下、皇后陛下のお姿が見え、今まで感じた事のない震えるような感動が全身に走った。両陛下御自らご移動され、いよいよ大将の前に立たれ、大将の言葉に耳を傾けられる。米づくりへ労いの言葉を頂戴し、皇后陛下からも「ありがとう」とお言葉を頂戴しました。農家に生まれ、これほどまでの幸せがあるだろうか。浮かんできたのは土と汗にまみれた父と母の顔。両親が歩んできたこれまでの全てに労いの言葉を頂いた想いがした。お父さん、お母さん、ありがとう。



農林水産大臣賞を受賞しました。

この度、服部農園有限会社は平成30年度、全国優良経営体表彰、経営改善部門にて「農林水産大臣賞」を受賞しました。働く人の減少が問題視される中、若い人材を雇用し教育に力を入れ、人を大切にすることで組織が伸びる事を実現していること。都市化が進み農地減少の問題を抱えながらも農業のあり方を変化させ、地域に根差した独自の取り組みを進展させている事。子連れで働けるよう整備し、積極的に女性活躍の場を作り出している事等が評価され、この度の受賞となりました。何も無い所から築いてくれた両親に、至らない私達と厳しい時代を共に歩いてくれた農園メンバーとそのご家族に、そして私達を見守り農地を預けて下さる地域の方々から心からの感謝を申し上げます。私達の夢はまだ途中、これからも仲間と共に一步一步進んでいきます。

編集日記

この2ヶ月間、献穀、大臣賞受賞、新店舗のOPENと人生の中でももう二度とないだろうと思うような華々しい日々が通り過ぎていきました。そんな舞台の裏側で、なぜだか過ぎ去りし日を思い出していました。父の運転するトラックの助手席で、夕暮れの堤防を姉と歌いなが見た景色。駅まで迎えに来た母に「軽トラで来ないで」といった多感な時代。夜中に乾燥機から戻り冷たくなった足を温める夫の背中。仲間が増え、注目を浴びる様になり、眩しい光の中で今まで苦勞をして築いてくれた人たちの姿が見えなくなっていたのではないかと気づかされた。働く人が「ここで働いてよかった」と思ってもらえる農園にしたい。そう想って稼業を継いだんだ。もう一度、原点に戻って仲間と一緒に汗を流していきたい。 女将より

【私たちのミッション】 10年後、100年後、この町にこの景色を残したい

私達は環境に配慮した循環型農業への取り組みと、次世代を担う農業者の育成に力を入れている農園です。

服部農園有限会社 〒480-0125 愛知県丹羽郡大口町外坪 3-158

TEL:0587-81-6688 / FAX:0587-94-1020 / Facebook 毎日更新中/http://www.hattorinouen.com

このお便りは服部農園でお米を買って下さっている方、農地のご地主様を含め、ご縁のある方に発行しております。「次回からは不要だよ」という方はお手数ですが、メールかFAXにてお名前をご記入の上、ご一報願います。